



## 目次

院長挨拶	1
病診連携施設紹介	2
スポーツ・膝疾患治療センターより	3~4
看護部だより「重心看護」	5
栄養相談室	6
ア・ラ・カルト「花粉症」	7~8
医療安全管理室	9
催し物・お知らせ・患者数	10
外来医師担当表／職員募集	11

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会  
国立病院機構  
発行責任者：長沼博文  
住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町11-35  
電話：055-253-6131  
ファックス：055-251-5597  
ホームページ：<http://www.kofu-hosp.com/>  
Eメール：[kofu@kofu.hosp.go.jp](mailto:kofu@kofu.hosp.go.jp)



「甲斐善光寺 山門(メイン写真)及び金堂(丸囲み内)」  
甲斐善光寺は、武田信玄公が川中島の合戦の折、戦場に程近い善光寺の焼失を恐れ、永禄元年(1558年)、本尊をはじめとする善光寺の諸仏さま宝類を奉遷したことに始まります。  
現在の山門及び金堂は、宝暦四年(1754年)の焼失ののち、寛政八年(1796年)に再建されたもので、日本有数の木造建築として、ともに国の重要文化財に指定されています。(参考資料「甲斐善光寺ホームページ」  
URL:<http://www.kai-zenkoji.or.jp/>) (写真・文 管理課庶務係 山田 昌弘)



## 独立行政法人国立病院機構 甲府病院の理念

### 1 基本姿勢

患者さまの目線に立ち、優しさと思いやりをもって病める人々が心を癒し、病を回復し健康を維持されるよう努めます

### 1 政策医療と地域医療

成育、重症心身障害を中心に当院で提供する全ての医療を政策医療として位置づけ、国民の健康と安全に寄与すると同時に、地域医療として山梨県民の皆様に還元し、県民に選ばれ、お役に立てるように日々努力します

### 1 患者様の権利

患者さまの平等で適切な医療を受ける権利、知る権利、選ぶ権利を守ります

### 1 研究と教育

全ての医療職種に貢献できる質の高い臨床研究と教育研修の推進に努めます

### 1 安定した経営

たゆまぬ意識改革を行い、独立行政法人として安定した経営を目指します

## 院長挨拶

## 「医療費は国家の負債か？ 発想の転換を！」



病院長

長沼 博文



平成20年と新しい年となりましたが、医療界にはまだ厳しい日々が続きそうです。現在、診療報酬改定の検討が中医協でなされていますが、全体として少しプラス改定となります。しかし、多くの病院の経営状況は苦しいままです。これまで、厚労省を含め国は、医療費は国の財政の負債であるとの観点から、医療費を抑制する政策を行って来ました。しかし、医療とはほんとに国家の負債であるのでしょうか。

医療費の総額は30兆円を超えています。その半分は人件費です。残り半分は医療機器メーカー、製薬会社などに行きます。人件費として支出されると、当然所得税、住民税が課せられ、職員は残りの大部分を生活費などで消費します。医療機器メーカー、製薬会社などでは、法人税を払い、職員に給与を払い、残りの一部は投資にあてていると思います。職員の給与からは所得税、住民税が引かれて、残りの多くは消費にあてられます。このように考えると、医療費の一部は税金として国に戻り、多くは消費に回ると考えられます。また、医療費によって医療機関、医療機器メーカー、製薬会社などに多くの人が雇用されています。この事は、医療への投資は雇用を拡大し、経済活性化効果があるのではないのでしょうか。事実、European Commissionの

2005年8月のレポート（The contribution of health to the economy in the European Union）では、OECD19カ国では医療への投資が経済成長率の16-27%を占めていたと示しています。EU諸国の間では、医療が経済活性化に重要な役割を果たしている事が認識されているのです。

日本では、国も政治家も一般の国民も、また多くの医療関係者も医療を負債と考えているのではないのでしょうか。今、その発想を転換して、EUの国々のように医療のいろいろな分野に積極的に投資することで、日本の経済を活性化し、その力で国民皆保険制度を維持してゆく方向に進むべきだと思います。今、日本全国で医療崩壊が起こりつつありますが、医師不足とともに医療費削減が大きな原因です。経営の効率化も重要ですが、医師を増やし医療費を増やすことが医療の質を向上させ、日本の経済の活性化にもつながると思います。一刻も早い発想の転換を期待します。

# 病 診 連 携 施 設 紹 介

## 頭痛・うつ・物忘れ

医療法人 斐水会

ながせき頭痛クリニック

理事長 永関 慶重

国立病院機構甲府病院の長沼院長とは、大学時代、群馬大学そして山梨医科（現山梨）大学脳神経外科と同じ教室でずっと一緒でした。いつもお世話になっております。

’03年4月に全国で初めてクリニック名に「頭痛」を冠して「ながせき頭痛クリニック」を旧敷島町に開業し、’08年2月の時点で4年10ヶ月が経過いたしました。頭痛を診るには、

ストレスなど心理的要素も関与するため、脳神経外科に併せて、心療内科も標榜致しました。院内設備としては、頭部MRIとX線一般撮影装置、心電図、動脈硬化測定装置が主なものであります。また、電子カルテを開院当初から導入し、完全ペーパーレスで十分機能しております。現在、職員は受付2人、看護師2人（常勤1、パート1）、放射線技師1人、臨床検査技師1人と薬剤師1人の計7人です。

当院は名前の通り、頭痛の患者さんが全体の約6割を占めており、平成19年に日本頭痛学会専門医となり同学会の評議員に推挙されました。当院の頭痛の種類では、片頭痛が4千例、緊張型頭痛は3千例と従来の頭痛の構成比率を覆す結果になっております。また、鎮痛薬を飲みすぎて頭痛が慢性化する薬物乱用頭痛が450例を超えており、薬漬けの患者さんの指導に追われております。

うつに代表される心療内科系の患者さんも極めて多く3千例を超えております。また、物忘れ診断外来を当初から開設し、アルツハイマー型認知症の患者さんが270名を超えております。このように当院は頭痛、うつ、物忘れを3本柱にしておりますが、本来脳外科医ですので、脳梗塞、めまいや頭部外傷も数多く受診されております。

アルツハイマー型認知症の補助診断にはSPECT検査（脳血流動態）の有用性が高いため、認知症の疑い例についてSPECT検査を貴病院にお願いしております。病診連携により、より確実な診断のもと、的確に治療を行っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



ながせき頭痛クリニックスタッフ（下段中央が永関理事長）



ながせき頭痛クリニック外観

### ◆診療科目

脳神経外科 心療内科

### ◆診療時間

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:30	○	○	○	×	○	○
午後 3:00～6:00	○	○	○	×	○	△

### ◆休診日

日曜 祭日 木曜日 ※土曜日は午後2時まで

住所 〒400-0124 山梨県甲斐市中下条1844-3

TEL 055-267-2211 ・ FAX 055-267-2212

# スポーツ・膝疾患治療センターより

## 『スポーツ・膝疾患治療センター』からのご挨拶

外科系診療部長  
萩野 哲男

国立病院機構甲府病院では平成19年6月に『スポーツ・膝疾患治療センター』を開設しました。

膝関節疾患の研究・治療において第一人者である広島大学整形外科の越智光夫教授に師事し、最新の関節鏡視下手術の教えを受けた落合聡司医長が平成17年に当院に加わり、膝関節疾患、特にスポーツ外傷に対して、それまで以上に幅広い対応が可能となりました。その後、膝疾患の内視鏡手術が増加し、センターとして専門的に対応を開始し、現在7ヶ月が経過しました。当センターはスポーツが原因のケガを負った患者さん、またサポーターなどの保存治療でも改善がみられない膝関節疾患の患者さんを、体に優しい内視鏡による手術により治療するのが特徴です。対象となるスポーツ種目はバスケットボール、バレーボール、ラグビー、サッカー、ハンドボールなどの球技から柔道、レスリング、スキーなど様々で、中高生や大学の部活動、社会人チーム、家庭婦人バレーチームなどプロスポーツ選手からアマチュアさらに一般の方まで広く対応しています。

甲府市内はもとより山梨県下には膝関節傷害専門、特に内視鏡による靭帯再建術や半月板手術を積極的に行っている病院はほとんどみられず、スポーツ傷害、特に膝関節疾患の治療を専門に掲げるセンターの開設は山梨県内では初の試みでありました。センターの開設は『スポーツ・膝疾患治療の甲府病院』の存在を山梨県民に広く知ってもらう目的があり、当センターの活動は山梨日日新聞に取り上げられ、他院からの紹介や、口コミでの患者数が増加し、以前は東京など県外で手術を受ける患者も多かった膝靭帯



損傷などの患者の治療を積極的に受け入れています。

センター開設後の平成19年7月には最新式の内視鏡（関節鏡）システムが追加整備され、今まで困難であった1日の複数件の内視鏡手術が可能となり、これまで以上に充実した治療が可能となっています。平成19年の1年間における関節鏡手術は221例で、このうち膝前十字靭帯再建手術が51例、半月板手術が81例などで、ほぼ毎日内視鏡手術が行われ、件数は倍増しています。膝関節疾患に対する内視鏡手術が年間200件に及ぶことは当院の特色の1つで、膝靭帯再建術は県内で最も手術件数が多く、これを含めた膝関節鏡の症例数も群を抜いています。そして膝十字靭帯損傷に対する手術は山梨県全域、また県外からの紹介患者も徐々に増加し、概ね良好な成績を上げています。

センターのスタッフは萩野哲男、落合聡司、若生政憲の整形外科医師3名、理学療法士4名、ならびに外来、病棟、手術室看護師で、主な設備としては最新の内視鏡手術システムのほか、膝関節の損傷を正確に診断するためには欠かせないMRI（核磁気共鳴画像法）撮影装置、X線用

ストレス用関節固定器 (telos SE) などがあります。そのほかりハビリテーションにはエルゴメーター、トレッドミルなどのトレーニング機器を常備しています。さらに来年度にはコンピューター筋力測定システムが導入予定となっています。

当センターでは山梨学院大学のラグビー部などのスポーツチームとの連携も図り、また積極的に研究活動も行ない知識や技術の向上に力を注いでいます。今後も山梨県のスポーツ・膝疾患治療の中核を担う病院を目指し、真心のこもった医療を展開できれば幸いです。そして広く山梨県各地から訪れてくれる患者の期待に応えていけるよう真摯に診療に臨んでいきます。膝関節の疼痛や不安定性等のある症例がありましたらご紹介いただければ幸甚に存じます。また膝の痛みのある患者さんは、お気軽にご相談ください。

なお診療に関するご案内は当院整形外科のホームページをご覧ください。

膝 甲府病院 |

で検索してください。  
<http://www.kofu-hosp.com/shinryou/seikeigeka.html>



平成19年6月 山梨日日新聞に当センターの開設の記事



内視鏡手術を行う落合聡司医長(左)と若生政憲医師



靭帯再建術を行う落合聡司医長(右)と筆者

## 看護部だより

## 「重症心身障害児（者）看護」

8病棟 副看護師長

長澤 亜弓

重症心身障害児（者）は、様々な基礎疾患をもつと共に、合併症を重複してもつことが多くみられます。また年齢の幅も成長途中の乳幼児から老人までと広く、各自のもつ障害の程度も様々です。そして、障害をもちながらも日々、成長・発達を続けています。その成長や発達は、周囲からの刺激によって育っていくため、刺激を作り出す私たち看護師の役割は大きな意味をもっています。

看護師は重症心身障害児（者）のもっとも身近な位置でもっとも長い時間接し、発達過程での援助の重要な一端を担っています。とくに言語的コミュニケーションが困難な重症心身障害児（者）の看護は、言語による意思統一が出来ないため、私たちは五感を活かし、重症心身障害児（者）の心に寄り添って看護をしていくことに努めています。

重症心身障害児（者）にとって入院生活は、治療の場であると共に生活の場でもあるのです。日常の生活は楽しく、また変化を持たせること

が大切であるとともに、QOL（生活の質）の向上への工夫と努力が必要となります。学齢児においては訪問学級教育を受け、成人は季節ごと開催される院外や院内のイベントに参加しています。そしてさまざまな障害による制限を受けながらも楽しく療育生活が送れるように私たちは援助しています。そのときに見せる笑顔、全身で表現される喜び、言葉にならない声の全てが、私たち看護師の看護への意欲の源になっています。

これからも私たちは五感を活かし、重症心身障害児（者）の心に寄り添って看護を実践していきたいと思っています。



# 栄養相談室

## 栄養管理室部門紹介

栄養管理室長 原 義隆

今年も皆様にとって素晴らしい1年となりますようお祈り致します。

さて、この年末年始は、いかがお過ごしでしょうか？こたつに入りおせち料理をつまみ…なんて感じではないでしょうか。気がついたらお腹周りが、アッ！なんてことになっていませんか。

今回は、「メタボリックシンドロームネット」ホームページに掲載されております「Let'sメタボピクス」についてご紹介したいと思います。インターネット環境のある方は、是非アクセスして下さい。

<http://metabolic-syndrome.net/>



内臓脂肪は腸間膜に蓄積するのですが、脂肪は体の動かしていない部位に蓄積するという特性があります。特にお腹周りや骨盤周囲の筋は、意識しないとなかなか動かすことが少ない部位です。体脂肪・内臓脂肪は、10分以上できれば30分程度継続した有酸素運動を3ヶ月以上行うことで減少するという結果が出ています。また、運動は血液循環や代謝を促進するという効果もあります。

でも、日常はお仕事などで「運動」は難しいという方も多いことでしょう。ここで紹介する幾つかのエクササイズは、足や腰に不安のある方でも、お仕事中座ったままでも、行える簡単な体操となっています。

※痛みのある場合は、その部位に負荷のかかるエクササイズは行わないようにしましょう。

さあ、皆さんで「Let'sメタボピクス」毎日続けられる運動から始めてみましょう。

Let'sメタボピクス

### お腹へこまツイスト体操【腹筋全般】10回



1. 最初にお腹を最大限へこませます。
2. お腹をへこませた状態をキープしたまま、両肘を90度に曲げ肩の高さに上げます。



3. 上体を左右にねじる動作を10往復繰り返します。
4. できればこれを3セットほど行いましょう。

※無理をせず、大きく捻るよう意識しましょう。

原案：日本健康運動研究所 代表 菅野 隆(健康運動指導士)

### ヒップウォーク体操【骨盤周辺筋】4歩10往復



1. 椅子の背もたれに背中をつけ、深く腰掛けます。
2. お尻を、左右交互に前に出しながら、手も振って座をお尻で歩くように4歩前に歩きます。
3. お尻を、左右交互に後ろに引きながら、手も振り、4歩後ろに歩きます。
4. 10往復程度繰り返します。

※骨盤調整効果もあります。

原案：日本健康運動研究所 代表 菅野 隆(健康運動指導士)

### 片膝押し上げ体操【大腰筋】左右各10回



- (1) 両足を90度を開き、片足の膝上太ももに両手を重ねて置きます。
- (2) 適度に両手で負荷をかけ、息を吐きながら、片膝を胸まで5秒かけて引き上げます。



- (3) 5秒かけて、ゆっくり戻します。
- (4) 左右の足で10回程度繰り返します。

原案：日本健康運動研究所 代表 菅野 隆(健康運動指導士)

## アラカルト

耳鼻咽喉科医師からみた  
花粉症対策について

耳鼻咽喉科医師

矢崎 裕久

## 花粉症とは

花粉症とはアレルギー性鼻炎・結膜炎が花粉による影響で発症することです。症状としては、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみが主な症状ですが、これらの症状以外にも、のどのかゆみ、鼻のかゆみ、喘息発作、などの症状を訴える方もいらっしゃいます。春はスギ、ヒノキの花粉が主で山梨では平均するとスギは2月の下旬から3月の上旬、ヒノキは4月の上旬が花粉飛散のピークです。花粉症にかかっている方には2月以降はつらい時期となります。今年は過去2年間に比較して花粉の当たり年と言われているので今まで花粉症でなかった方でも発症するかもしれません。

## 花粉の多く飛ぶ時期に注意する点

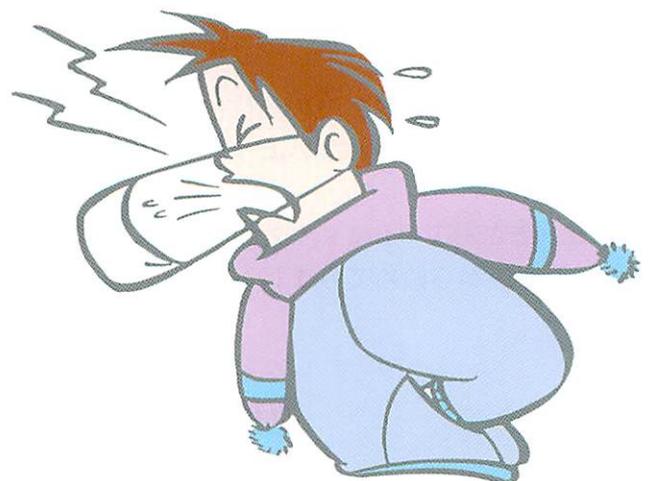
普段注意する点は、花粉が体の中に入るのを避けることです。たとえば、マスクをする、めがねをかける、洗濯物やふとんは外に干さない、出したときは、十分はたいて取り込む、窓を開けない、不要な外出は避ける、外出するときは、表面の滑らかな素材の上着を着る。外出より帰ってきたら家に入る前に服をはたく、過労やストレス（アレルギー症状をひどくさせる）を避けるなどいろいろあります。

## 治療

現在、花粉症は予防的治療が認められています。花粉が本格的に飛散する2週間前、(2月の初め)より、内服、点鼻、点眼を続けることです。このことを実行することで、花粉症の不快感を相当軽減することが可能となります。今は大衆薬も多数販売されておりますが、市販のアレルギーの薬は眠気などの副作用の強い成分も含まれております。医療



用の内服薬には眠気などの副作用の少ない薬も多数あります。自分の症状にあった薬を出してもらうには、耳鼻咽喉科医師に相談するのが最適でしょう。最後に重要なことですが、症状の有無に関わらず花粉期間中は出された内服、点鼻薬、点眼薬を指示されたとおりに続けることが大事です。花粉は予報も出ているとはいえ突然大量飛散することも多々あります。このような場合、時々薬を飲むような人は大量飛散についていけず症状がひどくなります。花粉症の時期は必ず、内服と外用薬は続けることにしましょう。



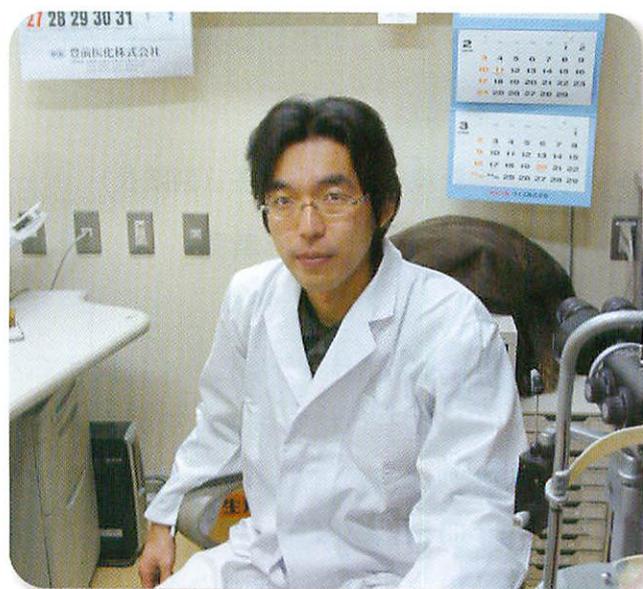
## 眼科医の立場からの 花粉症対策

眼科医師  
関根 新

花粉症、とりわけ春先に生じるスギ花粉症は、毎年非常に多数の方が発症されています。花粉の飛散状況が天気予報の中で報じられるのが、あたりまえに感じるほど花粉症は社会的な関心事、国民病ともいえる状況になっています。花粉症の目の状態を「花粉性結膜炎」と呼びますが、症状としては、かゆみが最も代表的なものです。目そのものがかゆく感じる場合もありますが、まぶたやまぶたのふちなどの部分に特にかゆみが現れやすく、かけばかくほど症状が強くなることもあります。これはアレルギー反応の特徴ですので、適切な治療によってかゆみを止めることが必要です。次に多いのはごろごろした感じ、「異物感」というものです。アレルギーの反応によってまぶたの裏側の結膜に粒状のもりあがりができますが、これがまばたきの際に黒目（角膜）と接触することによって生じる症状です。小さなゴミが入ったように感じることもあります。そして、場合によっては黒目にキズがつくこともあります。涙もよく見られる症状です。目やには、他の結膜炎に比べると多くはありません。花粉性結膜炎は原因がはっきりしていますので、ある季節に毎年起きること、程度の差はあっても両方の目に生じることも特徴です。

日本眼科医会の調査では、目のかゆみを感じたことのある方は約20%、医師によって「アレルギー性結膜炎」と診断されたことのある方は約15%もいることが報告されており、わが国では約2,000万人のアレルギー性結膜炎の患者さんがおられ、その大半は花粉症によるものであると推測されています。もちろん、花粉症の原因はスギだけではなく、カモガヤなどのイネ科の雑草や、ヨモギ、ブタクサ、ヒノキなどによる花粉もあり、一年中を通して何らかの花粉が空中を飛んでいることも事実です。

花粉症にはそれぞれ花粉の飛びやすい季節があります。例えばスギは二月から三月頃ですが、この時期に、花粉が目や鼻に入り込まないようにす



ることは花粉症の予防法として重要です。予防としてのメガネには多少の防塵作用はありますが、花粉症用に特別に作られたゴーグル状のものなどを使わない限り、完全に防ぐことは難しいといえます。したがって、花粉の症状を予防する方法としては、花粉の飛びやすい、雨天の翌日の晴れた日などはなるべく外出や布団を干すことを避けたり、外出から帰った際に衣服に付いた花粉を十分落としたりすることがあげられます。目を洗うことは、花粉を洗い流すという意味では効果が期待できませんが、実際に結膜炎になってしまった場合は、アレルギーに対するからだの反応そのものも洗い流してしまうこともあるので必ずしも勧められません。ただし洗顔して、目のまわりを洗うのはかまいません。何年もの間、花粉性結膜炎を繰り返している方の場合、花粉が飛び始める少し前（2週間くらい前）から、抗アレルギー点眼薬を予防的な治療法として使用することがあります。この場合も、前の年に使用した点眼薬は有効期限が切れていたり、雑菌が容器に入っていたりすることがあるので、診察を受けて、眼科医師が処方した点眼薬を使っただけが大切です。

2008年のスギ花粉飛散量は2007年より多く、飛散開始は2007年と同時期かやや遅い2月中旬と考えられています。思い当たる方は早めに専門医の診察を受けて花粉に負けない快適な生活が出来るようにしましょう。

## 医療安全管理室より

医療安全管理室長（副院長）

久富 幹則

1月も後半になり正月気分はとっくに抜けて、毎日日々の仕事に追われておりますが、皆様はいかがですか？

去年の一年間を思い出して見ると、食の安全が叫ばれ多くの会社が賞味期限の表示の改ざんをめぐり、マスコミに取り囲まれ謝罪しているシーンがテレビや新聞で報道されております。ますます私たちに安心・安全を社会から求められてきていると痛感しております。しかし食品の賞味期限は職業意識の改革でなくすことができますが、医療事故や院内感染を100%なくすことは容易ではありません。いやどんなに注意や対策をとっても一定の割合で発生するのかもしれない。しかしひとたび事故が起こればその患者様や、ご家族はもちろんですが、病院のその対応にかかるエネルギーと損失も膨大なものになります。なにがなんでも当院の安全と安心を確保していかなければならないと深く思っております。

病院の安心と安全を確保するためには2つ必要なことがあります。1つは個々の職員が常に専門的知識の向上心を持つこと、もう1つは医療安全の意識を常に持ち日々の仕事に望むことと考えておりますが皆さんいかがですか？



政府による市場原理の導入それに伴う格差社会等々、医療や福祉も必ずしも明るい未来ではないのかも知れませんが、職員が一丸となって安心・安全な病院をめざしたいと考えております。今年も昨年と同様に患者さまの目線に立ち、安全で安心な医療が提供できるよう医療安全管理室も更に努めます、みなさん一人ひとりの御協力をおねがい致します。



## 催し物

## 重症心身障害病棟 作品展示月間のお知らせ

重症心身障害病棟では、3月に作品展示月間を予定しています。これに向けて、現在作品を制作中です。日常の病棟生活で思っていることを詩で表現したり、また皆で協力して大きな作品を作ろうと思案中です。2月いっぱい仕上げ、3月より展示したいとがんばっています。

どうぞ重症心身障害病棟の作品をご覧ください。

## ●場 所

正面玄関ロビーの右側、及び、重症心身障害病棟エレベーターホール

## ●期 間

3月3日（月）～3月31日（月）

平成20年2月1日

ご入院・ご来院の皆様へ

## お 知 ら せ

今般、報道されております、「中国産冷凍食品」は、当院の患者様へのお食事には、使用しておりませんので、ご安心下さい。

国立病院機構甲府病院長

## 物忘れ外来 開設のお知らせ

当院では、物忘れを訴える患者さんを対象に、

**平成20年4月**より

**「物忘れ外来」**

を始めます。

**受診方法**：まず、脳神経外科外来を受診して下さい。(現在でも相談に応じています)

**検査内容**：簡易知能検査、MRI検査などを行い、認知症のスクリーニングを行います。認知症が疑われる場合には、さらにくわしい神経心理検査、脳血流検査などを行い診断します。

## 平成19年度一日平均患者数

## 入 院

※1月分及び年度累計は1月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

種別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般		107.0	108.6	109.5	98.3	94.3	110.5	106.2	117.8	113.5	114.9			108.0
重 心		119.8	120.0	118.9	119.5	118.6	117.5	118.9	120.2	119.6	118.8			119.2
計		226.8	228.5	228.3	217.8	212.8	228.0	225.1	238.0	233.2	233.7			227.2

## 外 来

※1月分及び年度累計は1月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	305.5	302.2	303.5	313.9	283.0	318.6	311.0	299.3	320.3	284.9			303.8

# 外来医師担当表

平成20年2月12日現在

		月	火	水	木	金
内科	1	渡 邊	川 口	渡 邊	渡 邊	渡 邊
	2	黒 澤	黒 澤	黒 澤	川 口	黒 澤
	3		循環器科 尾畑		中 尾	
	4	呼吸器科 金沢				
脳外科	5	長 沼	長 沼		長 沼	長 沼
特殊外来	午後3時～		渡 邊			
消化器科		稲 岡	稲 岡	大 塚		肝臓専門 外科 鈴木
小児科	1	久 富	木 多 村	加 藤	久 富	田 口
	3	中 根	神 谷	中 村	中 根	野 口
神経外来(午後)		中 村	野 口	神 谷		中 根
摂食外来(午後)					第2週 神谷 第3週 小野	
外科		鈴 木	角 田	角 田	鈴 木	角 田
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩 野	若 生	若 生	萩 野	萩 野
	2	若 生	落 合	落 合	戸野塚(久)	落 合
泌尿器科		相 川	萱 沼	相 川	相 川	相 川
産婦人科	1	滝 澤	雨 宮	滝 澤	雨 宮	朝 田
	2	雨 宮	朝 田	高 木	朝 田	滝 澤
眼科			平 井	関 根		今澤(入院)
耳鼻咽喉科					矢 崎	

●受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)  
 ※乳児健診/毎週 火・木曜日(完全予約制) ※人間ドック/毎週 火・木曜日 脳ドック/毎週 火・金曜日  
 ※予防接種(小児科)/毎週 水曜日(完全予約制) ※毎月第4金曜日/黒澤医師 糖尿病教室

## 募 集

### ◇周産期新生児専門医コース

- 対象：小児科専門医
- 期間：6ヶ月間の国立成育医療センターでの研修を含め、3年間。
- 募集人員：若干名
- 身分：常勤医師
- 指導医：副院長 久富 幹則(暫定指導医)

### ◇整形外科後期臨床研修コース

- 対象：原則、卒業後3～5年の医師
- 期間：3年間
- 募集人員：2名
- 身分：常勤医師
- 指導医：外科系診療部長 萩野 哲男(診療科経験年数18年)  
整形外科医長 落合 聡司(診療科経験年数9年)

### ◇その他医師を募集しています。

### 環境美化ボランティアを募集しています

- 活動内容：病院敷地内の清掃、除草、花壇整備等

## 平成20年度採用 看護職員募集 随時行って おります



当院ホームページより「受験願書」「採用希望施設票」をダウンロードの上、当院管理課人事担当宛にお送り下さい。折り返しご相談をさせていただきます。



### 宛先および照会先

〒400-8533  
山梨県甲府市天神町11番35号  
国立病院機構甲府病院  
管理課 人事係  
電話 055-253-6131(代表)

